

【W1】「心が動く身体の中のリアクションを使って、自分に向かって言葉を、音楽を発していこう。」

【講師】大石 哲史

【要旨】

ひとつの詩を提示します。

それをはじめに自分に向かって(あるいは自分の内部に向かって)小さな声で読んでいきます。自分に言い聞かせるように。

次に一言ずつメロディーをつけます。さっき読んだのと同じ力加減、同じ気持ち、同じ音量で、じぶんの内部に向かって歌っていきます。

これをコロナ禍で私は学びました。ソーシャルディスタンス唱法と名付けます。

別の歌を提示します。

これは、歩きながら口ずさみます。そして、何かを見つけて大きく心が揺れます、と同時に勝手に声が出ます、メロディーをともなって。

これをリアクション唱法と名付けます。

【プロフィール】

1955 年京都生まれ。

1977 年京都市立芸術大学音楽学部声楽科卒。

1982 年 オペラシアターこんにゃく座入座。

現在同座副代表。 セロ弾きのゴーシュのゴーシュ、魔法の笛のパパゲーノ、リア王のリア などを演じる。演出として、想稿.銀河鉄道の夜、浮かれの兵六機織歌、森は生きている などがある。